

館報

よい
お年を



12月号

No. 824

令和6年
(2024年)

やまがた



自分の歌声をたくさんの人に届けたい

りん いしがみ りん
RIN° (石神 凜) さん

歌声で会場を盛り上げてくれたRIN°さんは山形村出身。現在名古屋市を拠点に活動する現役高校生シンガーです。精力的にライブ活動を行う一方、今年は短編映画『余命士〜声のかけら〜』の主演を果たすなど表現の場を広げています。

今後はテレビへの進出や、大好きなバンド『Mrs. GREEN APPLE』さんと共演したい！という目標を持つRIN°さん。150年を迎えた村について「人が温かで、空気が美味しい。これから先もずっと“魅力溢れる自然豊かな村”として続いていってほしい」と想いを語ってくれました。歌声でみんなを元気にする！今後も彼女の活躍に期待しましょう。

(11月9日 開村150周年イベント『ねばねばフェス』にて)

働
姿

ねばねば いきます
150th anniversary
山形村 開村150周年

告知板

公民館講座のお知らせ

1月も魅力的な公民館講座がいっぱい！
気軽にご参加ください。

● 公民館特別企画

◇運動不足解消にニュースポーツで交流会

内容：ポッチャ

日時：1月7日（火）13:30～15:30頃

場所：トレセン体育館

持ち物：飲み物、暖かい服装で来てください

◇新年書道教室

日時：1月8日（水）9:30～12:00

場所：トレセン（大ホール）

費用：なし

持ち物：書道道具一式・半紙等

講座の詳細や申し込みは
ホームページから

(QRよりホームページを閲覧できます)



長野県自然保護活動等功労者知事表彰

自然観察インストラクター部門

10月22日(火)、長野県庁にて知事表彰が行われ、山形村から自然観察インストラクター部門で上條一則さん(下竹田・アクアの会代表)が表彰されました。この表彰は、多年にわたり、自然保護の活動に取り組み、県内の自然環境や生物多様性の保全に貢献された方を功労者として表彰するものです。受賞された上條さんから喜びのコメントをいただきました。

知らせを受けた時には、ビックリしました。自分で良かったのかなあと妻とも話し

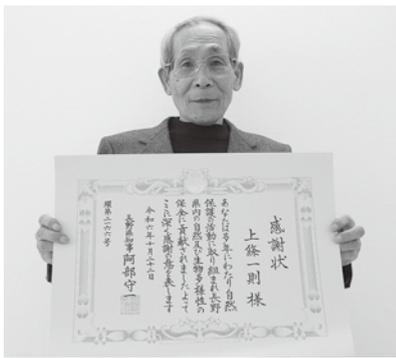
ました。だから、自分一人でいただいたとは思っておりません。一緒に活動して下さったみなさんへいただいた賞だと思っております。そういう思いで頂戴してまいります。きっかけは、子どもが保育園に通っている時代にいつまでも「子どもたちに虫を見せたい」と話し合い、そう思った保護者が集まって始めたことです。

田圃に水を引き込む小川に梓川の水が入り込むことで水温が12℃を下回り、蜚の餌となる巻貝が棲めなくなりまし

た。もともとの水だとそうはならなかったのですが…。

私の子供時代は農業の機械化前で、何をするにも農具を持った人手による時代で、人手が農家には必要な時代でした。そんな中、自分で作った捕虫網を持って昆虫の採集に夢中になっていましたので、おかしな子だと言われました。しかし、母の「好きなことをやりなさい」の言葉に勇気づけられ、後押しされて、虫集めをやっております。

長野県は全国的にも有数のチョウの種類が豊富な場所です。日本各地から採集に来る仲間を自宅に連れ帰り、一夜の宿と風呂、夕食でもてなしてくれた母のおかげで仲間が多数できました。母に感謝しております。



英語でバルシューレ

11月17日(日)、ふれあいドームでバルシューレ(ボールを使った運動)が開催されました。

小学校ALTのレイナヤップ先生の所属する英会話学校A to Zは、県内の小学校に英語の講師を派遣しており、松本山雅のスポンサーでもあることから2社が協力したイベントです。



松本山雅のインストラクターの指示に従って、指定された部位にタッチするゲームをしました。最後に行われた変則サッカーは、PK戦になるほどの熱戦が繰り広げられました。

子どもたちは楽しそうに体を動かしながら英語を学んでいました。

山すそ

もうすぐ2024年が終わる。この時期になると、その年の初詣で引いたおみくじの内容と照らし合わせながら、一年を振り返るのが私の恒例だ▼今年は一吉。「本業をよく守り、静かに時が来るのを待てば必ず運が開ける。信心すること」というおみくじの言葉を胸に、一年を過ごしてきた。私の本業は学業だ。研究活動に追われる多忙な日々だったが、その中でもやりがいを感じながら一歩ずつ前進することができた▼

学業だけでなく、山形村の地域活動にも力を注いだ。生まれ育った地域ながら、まだ知らないことも多く、新たな学びや出会いに溢れた一年だった。この村は、学業では得られない貴重な経験を与えてくれるフィールドでもあった。支えてくれた周りの方には感謝の気持ちでいっぱいだ▼学業でも地域活動でも、おみくじのように「時が来た」「運が開けた」と言えるのはまだ先のことかもしれない。しかし、そうした未来を信じる気持ち、つまり「信心」は高まってきたと感じている。来年はどんな一年になるか、楽しみだ。



ねばねばフェス 秋のグルメ&音楽祭

2024年11月9・10日 同時開催：JAまつり・商工会イベント

開村150年のメインイベントである『ねばねばフェス』が、アイシティ21屋外駐車場で西側特設会場で2日間におわたって開催されました。

春の同フェスも大盛況でしたが、一連行事の大トリとも言える秋の巨大イベントに村内外からたくさんの方が訪れ、会場は溢れんばかりの賑わい。今年の秋掘り長芋を使った『やまっち蕎麦』と『とろろご飯』が限定で振る舞われたほか、地場産品が当たる抽選会、特設ステージでは村ゆかりの団体やアーティストが会場を盛り上げました。

同時開催のJAまつりではステージからの餅投げが好評で、物販でも長芋やりんごがすぐに売り切れてしまう盛況ぶりでした。トラクターの試乗は家族連れの記念撮影スポットになり、五平餅を作って食べる企画や記念缶バッジ作りのブースも好評でした。

同じく同時開催の商工会イベントでは、射的やピンボール、かたぬきなど、昔ながらの出店が目を引き、どこか懐かしい感覚を覚えたお客さんも多かったように思います。

一般ブースでは、キッチンカーや食べ物系のお店が充実していたほか、地域おこし協力隊は沖縄のお菓子とさんび

ん茶を提供。雑貨やアクセサリ、衣服、珍しいメダカすくいの出店もあり目を引いていました。

体験ブースでは、長野高専による『約150倍の世界をのぞいてみよう!』という顕微鏡を使った企画や、年齢性別、国籍も関係なく、誰もが一緒に遊べるように設計された『インクルーシブ遊具』が南側芝生スペースで体験できました。そして、『桜をつくろう! ワークショップ』と題して、しだれ桜の幹のみが描かれた布に手形をスタンプしていくことで、満開の桜を

咲かせるという企画は、『村誕生から150周年を振り返り、続いていく未来へ思いをつなぐ』という趣旨のもと、多くの老若男女の協力で見事な桜が咲き誇りました。

今回は誌面が許す限りお祭りの様子をご紹介します。



開会式は、本庄利昭村長、平沢典義^{のりよし}商工会長、JA松本ハイランド山形支所の百瀬文栄^{ふんえ}理事が挨拶



JAによる白熱した餅投げ大会



JAのガラポン抽選会



やまっち蕎麦(約300食)、とろろご飯(約250食)のふるまい 久しぶりに見る長蛇の列にお祭りの賑わいを感じました



抽選会では、『やまっち』とJA松本ハイランドの『ゆめピーちゃん』もお手伝い



商工会のバターピンボール



手形スタンプのしだれ桜は見事満開に

感動と衝撃のステージ



渡 梓さん (山形村出身) は、友人で邦楽家のあかる潤さんとの共演もあり、ラストの『BLUE BIRD』は透き通った歌声が澄んだ青空に染みわたりました。



笑顔が眩しい今号表紙のRIN°さんは、オリジナル曲『1ミリ』『SAKURA』など、情感溢れる歌唱を披露。



両日、勇壮な彌磨太鼓から開幕。2日目は愛知県を拠点に活動する世界的和太鼓奏者の小林辰哉さん (GONNA) との共演が行われ、会場に最上級の活気を漲らせました。



B'zの稲葉浩志さんの歌モノマネで絶大な人気を誇る、中村素也さん (上竹田) は、400あるB'zの曲を99%歌うことができ、歌詞も全て暗記しているとのこと。公演の途中で「いいですかみなさん、モノマネを真面目に見ない、聴かないこと。約束です」と自ら注意を入れるものの、歌の完成度が高すぎて、もはや聴き惚れている人しかいません。稲葉さんのスピリットまで再現する“似ている”を超越した域に達していました。2日目の素也さんに意気込みを聞くと「最後の力を振り絞ってがんばります」と、村で歌うことに感慨深いご様子。両日とも大トリの『ultra soul』では会場をひとつにしました。



普段入ったことのない舞台裏や、ステージからの眺めなどに乗り子の子どもたちは興奮しながらも、堂々とお囃子を披露しました。祭囃子保存会最高齢の上條明昭さんは「こんな(大きなステージで祭囃子を発表する)ことは初めてだ。ありがたい」と感動していました。



11月30日(土)、松本市市民芸術館にてテレビ松本50周年「子どもたちのゆめ舞台」が開催されました。松本エリアの伝統行事や祭囃子を発表するイベントです。山形村からは大池諏訪神社のお囃子が選ばれ、今年「年番」の中大池地区の祭囃子保存会と乗り子が『船囃子』『松本囃子』など計4曲を演奏しました。

テレビ松本50周年記念事業 『子どもたちのゆめ舞台』

祭囃子保存会会長の平沢典義さんは「イベントに参加の声掛けをもらったとき、乗り子の子どもたちとのおうちの方に快諾していただいたのが本当に嬉しかった。この発表は、子どもたちにとっても一生の思い出になったと思います」と話していました。



上竹田分館野菜収穫体験 第3回白ネギ

11月10日(日)朝10時過ぎ参加者5名は、小坂原の宮沢由紀さんの白ネギ圃場にて収穫を体験しました。



下竹田分館麻雀同好会

11月17日(日)、下竹田公会堂で下竹田分館の麻雀同好会が行われました。分館行事として初の試みで、記念の第1回でした。26名が参加し、今後の発展に期待です!



野沢菜収穫体験

11月28日(木)〜12月3日(火)、観光協会主催のイベント「野沢菜収穫体験」が開催され、6日間で111人が参加しました。2019年から今年で6度目のイベントで、毎年神奈川県からご家族3世帯でいらつしやる方も。常連客からは「この野沢菜は細くて漬けやすいからとても良い」と人気が高いようです。1mの紐1本500円で、束ねると概ね7〜8kgを収穫できます。

今年生育状況があまり良くないそうで、安曇野市から参加されたご夫婦は「毎年自分の畑で作っているけど、今年はずうまく育たなかった。偶然見つけたイベントに参加できてよかった!」と話してくれました。

家庭によって味わいが違うことも魅力の一つである野沢菜。参加者同士でレシピや上手な漬け方を教え合いながら、楽しんで収穫している姿が印象的でした。



山形小学校 修学旅行

11月28日(木)・29日(金)修学旅行に行っていました。バスで東京に向かう最中は最高の天気で、富士山がとっても美しく見えました。最初の見学場所が国会議事堂です。衆議院議員の下条みつさんに案内して頂き、建物の中を見学し、国の中心としての役割を感じることができました。次に横浜のカップヌードルミュージアムです。

マイカップヌードル作りをしたり日清の創立者である安藤百福さんについて学びました。次に東京タワーです。今年度は外階段を600段ほど上り、東京の夕暮れの夜景を楽しみました。お土産を買った後は千葉県にあるセレブレーションホテルに行きました。ピュッフェスタイルでおいしい夕食をいただきました。

2日目は東京ディズニールンドです。入場後は、各グループが行きたい場所に向かって歩き出し、お昼を食べるバスに戻ってきた時は、みんな興奮していて、とっても楽しかった様子をたくさん話してくれました。



帰りのバスは青空の東京を出発し、山形村に着いたときは真っ暗になっていました。お迎えに来てくださったお家の方の姿を見て、子どもたちはほっとした様子でした。きつと、たくさんのお土産話ができたとおもいます。

楽しかった修学旅行。友達の良いところをたくさん見つけ、五感を使って東京を感じることができ、素晴らしい思い出になりました。



山形小学校 持久走大会

11月8日(金)、山形小学校で持久走大会が行われました。距離は1800mです。

この日は朝霧がかかるとても寒い日でしたが、児童たちは多くの保護者に見守られて元氣いっぱい力走していました。走り終えた児童たちは、まだゴールを終えていない友だちを応援したり、一緒に走ってあげたりとても微笑ましい光景でした。



おめでた字・題 風

中村 風 誠 智子 上大池

- おくやみ
- 小林 茂廣 92歳 小坂
 - 戸沢 繁男 77歳 小坂
 - 堤 ヨシエ 97歳 上大池
 - 上松 二郎 95歳 中大池
 - 越 英吉 89歳 下竹田
 - 齋藤 隆雄 86歳 下竹田
 - 平沢 すみえ 90歳 中大池

山形保育園焼きいも会

11月6日(水)

山形保育園で恒例の焼きいも会が行われました。前日の天気予報は雨で開催が危ぶまれましたが、天気に恵まれ予定どおり開催できました。10時50分ころより園児たちが熾火となった焼き場にさつまいもの投げ入れ開始です。クラスごと「おいしくな〜れ!」とおまじないをして交代です。楽しみにしていた午後のおやつは、みんな外に出て食べました。秋晴れの空の下、「すごい焦げてる!」「おいしい!」と笑顔いっぱい頬張っていました。



せーの!!



仲良く並んで



おいしいね♪

第30回やまの「まつり」

11月17日(日)、やまのこ保育園にて第30回やまのこまつりが開催されました。園庭にはワークショップや商品販売のテントが並び、秋晴れの空の下、多くのお客さんと賑わいました。民族舞踏集団の迦楼羅によるエイサーなどの公演と保護者による30回記念の餅つきが行われ、楽しい一日となりました。

実行委員長の矢口ゆいさん(下竹田)は「OBの方や地域の人たちがこんなに大勢来てくださってとても嬉しいです。準備は大変でしたが、まつりチームのパパママや担当の先生と仲良くなれたし、楽しくできました」と話していました。家族で来ていたOBの田村優月さん(小3)は、「おいしいものもたくさん売っていましたし、スタンプラリーも楽しかった」と話していました。



迦楼羅の公演



バザー



記念の餅つき

みんなの人権 109

山形村開村150周年と「人権の今」 ~はて?多様性を認め合う地域づくりとは...~

《その1 村文化祭「民族衣装のファッションショー」に見る「多文化共生」時代の人権》

グラムは「開村150周年記念ファッションショー」。かわいい保育園児から大人まで、村民から募った多世代のにわかモデルさん21人が、JICA提供の7ヶ国の民族衣装を身にまとい、ランウェイを闊歩。会場は、世界各国の歴史を背負った民族衣装の醸し出す香りに包まれ、観客からは盛んな拍手の嵐。◇「民族衣装のファッションショー」と題したこのプログラムの副題は「アートで紡ぐ共生プロジェクト事業」。我が村も今年(2024年)は明治7年の開村から150周年。この間、開村当時の3,000人の村から8,400人が居住する村へと人口も増え、今では農業主体の生活スタイルから多種多様な職業や多様な生き方の混在する村へと、大きく様変わりしてきました。古くからの村民と新しく移住して来た村民との共生の在り方、増え続ける外国籍村民との多文化共生の在り方など、各区や行政のこれからの新しい村づくりの課題に理解を深めてもらおうとの意図もあって企画されたプログラムと聞いています。◇平成初期のバブル崩壊後も、近隣都市圏のベッドタウンとして人口が増加し、平成の大合併の際も独立村を選択(2003年)した我が山形村では、第6次山形村総合計画(2023年~2032年)でも、村づくりの3つの考え方の一つに「多様性を認め合い、支え合い、輝き合う村づくりへの転換」を掲げて、さまざまな施策が展開されています(山形村ふるさと検定ガイドブック2024年。村教育委員会編集)2. 村の今を知ろう(参照)。また、コロナ禍が開けた今、ふるさとの豊かな自然環境を守り育てたり、未来の宝物・山形っ子のたくましい成長を支援する取組み等に、老若男女交じり合って汗水流している自主活動団体の皆さんがいます。4年間の「閉ざされた生活」のなかで一層顕在化した「コミュニティのほころび現象」を修繕しようとして、新旧村民や外国人村民との共生の在り方を模索し始めている地区もあります。それらの「身近な新しい人権課題」の解決に向けた営みに、よりウェルビーイングな地域づくりへの萌芽を感じ、元気をもらっているこの頃です。

(令和6年12月 M. H. 記)



◇第74回山形村総合文化祭が、11月2日・3日の両日にわたり農業者トレーニングセンターを主会場にして盛大に開催されました。なかでも目を引いたプログラムは「開村150周年記念ファッションショー」。かわいい保育園児から大人まで、村民から募った多世代のにわかモデルさん21人が、JICA提供の7ヶ国の民族衣装を身にまとい、ランウェイを闊歩。会場は、世界各国の歴史を背負った民族衣装の醸し出す香りに包まれ、観客からは盛んな拍手の嵐。◇「民族衣装のファッションショー」と題したこのプログラムの副題は「アートで紡ぐ共生プロジェクト事業」。我が村も今年(2024年)は明治7年の開村から150周年。この間、開村当時の3,000人の村から8,400人が居住する村へと人口も増え、今では農業主体の生活スタイルから多種多様な職業や多様な生き方の混在する村へと、大きく様変わりしてきました。古くからの村民と新しく移住して来た村民との共生の在り方、増え続ける外国籍村民との多文化共生の在り方など、各区や行政のこれからの新しい村づくりの課題に理解を深めてもらおうとの意図もあって企画されたプログラムと聞いています。◇平成初期のバブル崩壊後も、近隣都市圏のベッドタウンとして人口が増加し、平成の大合併の際も独立村を選択(2003年)した我が山形村では、第6次山形村総合計画(2023年~2032年)でも、村づくりの3つの考え方の一つに「多様性を認め合い、支え合い、輝き合う村づくりへの転換」を掲げて、さまざまな施策が展開されています(山形村ふるさと検定ガイドブック2024年。村教育委員会編集)2. 村の今を知ろう(参照)。また、コロナ禍が開けた今、ふるさとの豊かな自然環境を守り育てたり、未来の宝物・山形っ子のたくましい成長を支援する取組み等に、老若男女交じり合って汗水流している自主活動団体の皆さんがいます。4年間の「閉ざされた生活」のなかで一層顕在化した「コミュニティのほころび現象」を修繕しようとして、新旧村民や外国人村民との共生の在り方を模索し始めている地区もあります。それらの「身近な新しい人権課題」の解決に向けた営みに、よりウェルビーイングな地域づくりへの萌芽を感じ、元気をもらっているこの頃です。



今年を振り返って

2024年もあとわずかとなりました。今年はどうな年だったでしょうか。今年も村内6名の方に「今年を振り返って」という内容で寄稿をお願いしました。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたのはもう去年の5月のことだが、脅威を忘れてきた今年11月にまさかの初感染。深刻で悪辣な症状が出て、治す薬は無い。結果、回復には20日間を要した。察するに感染は運である。



25年ぶりの長髪さん (上大池)

未知の体験

令和5、6年と大池諏訪神社祭典の委員長をやらせて頂き、6年ぶりの舞殿曳航で忙しい1年でした。歴代一番若い祭典委員でしたが地域の方がたに支えられて祭典を成功することができました。また、『子どもたちのゆめ舞台』にて中大池祭囃子を子どもたちと演奏することができ、大変充実した1年でした。



塩原 郁智さん (中大池)

今年を振り返って

今年は仕事で新しい挑戦が多い1年だったと感じる。仕事では3年目ということもあり、任せられる仕事も増えた。責任を持つ部分が多くなり、悩むことも多くあったが、全て終わると達成感を感じ、自信が持てるようになった。



H.Rさん (下大池)

責任と自信

最近スマホゲームのピクミンブルームに出会いました。ピクミンと歩くことで花を咲かせピクミンを増やすゲームです。苗を拾った場所により纏うデゴも違うので、コレクター心に火がつきすっかり夢中になってしまいました。これからもピクミン達と歩いて健康を維持していきたいです。



ピクミン子さん (小坂)

人生初！ピクミンとの出会い

92歳になりました。こんなに長く生きるなんて思ってもみなかったです。廊下で転んで大腿骨を骨折、2ヶ月入院して4点杖が離せなくなりました。でも、畑に出て、野沢菜・春菊・ほうれん草・大根が作れました。



ひまわり大好きばあちゃん (上竹田)

来年も野沢菜漬けを作りたい

今年、コロナ前に戻ったと実感することが多い年でした。ソーシャルディスタンスや3密回避などの用語も聞くことがなくなり、気づけば、仕事でもプライベートでも人と触れ合う機会が沢山ありました。やはり良いものですね。



モリの熊さん (下竹田)

今年を振り返って

読者の皆さんの2024年はどんな年でしたか？今年には元日に起きた能登半島の大地震、9月の豪雨と、近県で立て続けに起きた悲劇に災害への備えを考えさせられる1年だったと思います。そんな状況下ではありましたが、山形村は150周年を迎える特別な年となり、数多くの記念行事が開催されました。取材の中、元気で躍動感ある人びとを見ると何故かそれだけで感動が込み上げてきて、本誌ではそれらをできるだけ鮮明に記録することを心がけてきました。本年もご愛読いただきありがとうございます。良い年の瀬をお過ごしください。

- 1月・山形小学校に「大谷クローブ」が届く
- 2月・4年ぶりの朝日村山形村農業委員会研修会開催
- 3月・山形村サイレン(ボー)についてアンケート結果発表
- 4月・ねばねばフエス 春のグルメ&音楽祭開催
- 5月・150周年記念花壇づくり
- 6月・開村120周年記念のタイムカプセル掘り起こし
- ・史談会50周年特別記念『郷土』1600号発行
- 7月・タイムカプセル開封式
- 8月・山形じゃんすら、公民館まつりが雷雨のため中止
- 9月・県民コンサート in やまがた開催
- 10月・山形村開村150周年記念式典開催
- 11月・ねばねばフエス 秋のグルメ&音楽祭開催
- 12月・山形村ふるさと検定、初の実施

山形村の出来事

山形村公民館報『館報やまがた』No824 12月号 令和6年12月発行
編集と発行／長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷／カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見るができます→

